２０１９年（平成３１年）２月４日　月曜日

東奥日報　９面　掲載

第74回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会は最終日の3日、北海道釧路市内で3競技を行った。県勢は、スピードの成年女子3000㍍で澤尻麿里英（八学大）が2位。少年男子1000㍍は橋本芳彦（八戸西）が5位、同500㍍で根城知哉（同）が6位。リレーは成年女子が5位、成年男子が7位。アイスホッケーは3位決定戦で少年男子が4―2、成年男子が延長の末4―3でともに埼玉を下し、3位となった。ショートトラックは西山夢乃（神奈川大）が成年女子500㍍に出場、準々決勝で敗れた。

スケート・アイスホッケー競技終了時点での本県の男女総合成績（天皇杯得点）は、スケート（51点）とアイスホッケー（70点）合わせて121点の8位。昨年と同じ順位となった。来年の第75回国民体育大会冬季大会のスケート・アイスホッケー競技会は八戸市、三沢市、南部町で行われる。

（秋村有香、工藤俊介）

第74回 スケート 釧路国体 最終日

澤尻（八学大）粘って準V

成年女子3000

【スピード成年女子3000㍍決勝】澤尻（八戸学院大）が2年ぶりの2位＝釧路市柳町スピードスケート場

3位に0・05秒差 県勢唯一表彰台

ヒロイン

「足が限界だったけれど、気持ちで滑った」。（八戸学院大）。2年ぶりの表彰台に立ち「目標を達成できた。青森県に貢献できてうれしい」と笑顔がはじけた。

スピード成年女子3000㍍で2位となり、スケート競技の県勢でただ一人表彰台に上った澤尻　前回大会は4位と悔しい思いをした。「必ず表彰台へ」。強い思いを持って臨んだ決勝では、くじで前列を引き当てた。「行くしかないと腹をくくれた」（澤尻）と、号砲が鳴ると同時に迷わず先頭へ。一気に加速してインのポジションを取り、順位が優先される規定の責任先頭2回を早々とクリアした。

レース中盤は後方に位置をとって力をため、迎えた最終周の直線。先頭の選手には突き放されたものの、追る3位の選手との競り合いを0・05秒差で制し2位を死守した。

スピードスケートが盛んな北海道芽室町出身。進学後も競技を続けるべく八戸学院大を選んだ。3年生の澤尻にとって来季は学生最後の年になる。くしくも国体は八戸開催。「残すは表彰台の中央。お世話になった八戸で有終の美を飾りたい」と強い決意をにじませた。

（工藤俊介）

八学大4人団結 5位 成年女子リレー

八戸学院大の4人でチームを組む成年女子2000㍍リレーの本県。前日に決勝進出を逃した悔しさを晴らすように、5～8位決定戦を制し5位入賞を果たした。1走・前中（1年）がスタートダッシュを決め迷わず先頭へ。2走・杉浦（同）と3走・大岩（同）も危なげない滑りとスムーズなバトン渡しで差を広げた。

最後にバトンを受けた4走・鬼頭（3年）も後輩たちの思いに応えるように全力で滑走。6位以降に7秒の大差をつけゴールした。

4人は「本当は決勝で滑りたかった」と悔しさをにじませながら、最後まで先頭を譲らなかった快勝に満足そうな様子。鬼頭は「4人で練習してきた成果が発揮できて良かった。来年はチームワークを磨いて、もっと上を目指す」と笑顔を見せた。

（工藤俊介）

【スピード成年女子2000㍍リレー順位決定戦】先頭を譲らず5位に入った本県チーム。3走・大岩（八学大）㊧が4走・鬼頭（同）にトップでバトンをつなぐ

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです